令和6年度「未来の技能者育成事業」体験授業実施結果報告書

2024.12.25(水)

事業コード	24-G-08	学校名	高山市立清見中学校	住　所	高山市清見町三日町477-1
実施日	10月29日（火）13:20～15:35			受講児童生徒数	65名（1年生21名/2年生19名/3年生25名）
開講職種数	4職種	指導者数	6名	参観保護者数	0名

学校アンケートの結果

1　体験授業全体を通して、満足していただける内容となっていましたか

→　①多くの児童生徒が、講話に傾聴し、積極的にものづくり活動に取り組むなど、大変満足できる内容であった

4　貴校の児童生徒が将来技能者を目指すに当たっての課題や、ご意見があればお聞かせください

→ ・小学校や中学校の図工・技術は、物を作る楽しさや基本的な知識を学ぶことはあっても、工業製品やより優れた伝統技能に触れる機会は少ない。工業やものづくりなどへの興味が低いことが課題である。また、高い技術力が飛騨高山の産業としてあることを知ってほしい。

会場担当教員アンケートの結果（４会場の先生）

1　この体験授業にて児童生徒にものづくりの魅力や意義が伝わったと思いますか

①大変よく伝わった →	4	②ある程度伝わった →	
③あまり伝わらなかった →		④全く伝わらなかった →	

2　児童生徒の皆さんが技能者を目指すに当たっての課題と思われることを自由にお書きください

→
・当初は関心がなかったが、すごく楽しく、興味が沸いたという意見が多かったことから、体験授業を選ぶ際には、自身の興味・関心に関わらず、まずはどんなことでも体験してみて(全く興味のないことでも)そこからどんな想いを持つかが大切なのではないかと感じました。(家具製作会場)
・職人さんの人口が少なくなってきている上に、日本の伝統工芸や産業に慣れ親しむ機会も少なくなってきました。今回の体験授業のように本職として高度な技能や知識をお持ちの方に来校いただき、職業講話や体験活動の指導をしていただけることは大変貴重なことです。(畳製作会場)
・職人になりたいと思ったとき、高校をどのような視点で選んでいくとよいのか。様々な職人の方の生き方をお聞きして、いろいろな経験や体験の機会をつくることで、自分の将来の道を見つけていくことができる生徒を育てたいと思いました。(印章彫刻会場)
・今回は、興味のある多くの生徒が本講座を受講していました。もともと興味のある生徒はもちろん、あまり興味のない生徒でもこういった機会に触れることで、知らないことを発見したり感じたりするのではないかと思いました。(フラワー装飾会場)

指導者アンケートの結果（４職種の各代表）

1　今回の授業は指導者として満足できる内容になったと思いますか

→	①多くの児童生徒が、講話に傾聴し、積極的にものづくり活動に取り組むなど、大変満足できる内容であった	4
	②興味関心を示さない児童生徒も少しはいたが、概ね満足できる内容であった	
	③興味関心を示さない児童生徒が多く、あまり満足できる内容ではなかった	
	④ほとんどの児童生徒が興味関心を示さず、まったく満足できる内容ではなかった	

2　今後の業界における人材育成の課題についてお聞かせください。また、その課題の解決に関して、この体験授業の中でさらなる要望がもしありましたら、お聞かせください

・私は家具メーカーに勤めていますので、その立場でお話させて頂きます。
若い方が地元に就職する人が少ないのは、地元にも技能や技術を学ぶ学校やそれを活かせる仕事があることを知らない方が、多くみえるからではないでしょうか。
　社員の平均年齢も高くなってきてますので若い方の活力が必要とされています。
会社に入っていただく為には、技能に対する魅力を会社としても積極的に公開できればと思っています。
　さて、当社では4年ぶりに技能五輪全国大会へ１名の選手が出場します。先般は、県代表選手の壮行会を行って頂きありがとうございました。職業能力開発協会の皆様方には大変ご厄介をお掛けし重ねて御礼申し上げます。
　今回出場する選手は女子です。他県の工芸高校（工芸の専門高校）出身者で卒業と同時に当社に就職してくれました。在校中に家具手加工2級の資格を取得していましたので、入社１年目には家具機械加工２級を取得し、今年度は予選大会に挑戦し、おかげさまで技能五輪への出場権を得られました。高校卒業時に資格があったのは大変ありがたい事でした。基礎から始めると技能的に能力のある人でも2年は掛かり、通常であれば3年も掛かってしまいます。従って、技能五輪へ挑戦するには年齢的にギリギリになってしまいます。会社に勤めているので、日々の業務もあり、予選会へ向けた練習は大変な負担となります。会社としても、所属する工場現場としても出来る限りの支援はしていますが、大手の会社のようになかなかできません。
　では、なぜ技能五輪に挑戦するのか。一言で言えば「技能者としての自信と誇り」ではないでしょうか。若い時は悩みが多いものです。自分に自信が持てず日々もがいているのではないでしょうか。大きな目標に向かって自分を鍛錬する事でしか解決できない気長な課題です。１つ１つ達成することの積み重ねが技能者の力を高める事となるように思います。その１例として技能五輪への挑戦があるように思います。
　こうした若い技能者が初心を忘れず日々頑張っていただける事が地元産業にとっては大きな力を得ることになります。そこで大変僭越なお話ですが、今回の事例のように会社に入社した時点から、技能向上に挑戦出来るよう、岐阜県の高校においても、技能育成の出来る授業の仕組みがあれば、ありがたいと思います。
　今回、中学生を対象に「未来の技能者育成事業」という事で参加させて頂きましたが、短い時間の学習で技能の体験授業として十分な内容であったか少し心配なところもあります。ただ面白かっただけではなく、自分の将来を見据え、職業としての観点から見た体験学習として、生徒の皆さんが感じて頂けたのであれば、意味のあるものであったと思います。
　取り留めのないアンケートの回答になりましたが、最後に、子供たちに仕事の尊さや、誇りの持てる仕事の大切さを考えていただきたく、啓蒙活動を積極的に取り組んで頂きますようお願い申し上げます。(家具製作職種)
・畳業界では、職人が急激に減っています。高山市内においては、組合員としては4社しかありません。以前は20社ほどありました。
建築・建設業界も同じ状況です。この事業を通して少しでも多くの若い職人の方を増やせられればと思います。
また、この事業でものづくりの魅力を正しく理解をしてもらい、職人が１人でも増えてくれればと思います。(畳製作職種)
・本物の朱肉(8000円以上)を使って「ハン」を押す授業をしました。私はお客様にスポンジ朱肉(市販1000円)ではなく、1000年前から使われている本物の朱肉を使って押印し、実印と共に見ていただいています。ペーパーレス時代だからこそ、本物を使う事の大切さやハンコのもつ意味を中学生にアピールしたいと思っています。(印章彫刻職種)
・今回中学生に体験授業を実施できたこと、とても良かったと思います。お花を通して仕事の喜びや魅力を伝えることができました。そして、興味も示してもらいました。
岐阜県の委託事業として体験授業が実現できることは素晴らしいと思います。今後の後継者につなげるためにも事業の継続と、拡充を願います。そして、授業の内容を充実したものにするために、材料費の増額げも検討して考慮いただきたいと願っています。(フラワー装飾職種)

会場別の指導者数・受講者数・児童生徒アンケートの結果

〔児童生徒 アンケートの質問 〕　今回の体験授業全体を通して、どれぐらい満足されましたか

		家具製作	畳製作	印章彫刻	フラワー装飾	
指導者数		2	2	1	1	
受講児童生徒数		16	16	17	16	
回答	とても満足した	15	16	16	16	
	ある程度満足した	1	0	1	0	
	あまり満足できなかった	0	0	0	0	
	満足できなかった	0	0	0	0	
	合　計	16	16	17	16	

					合計(左:人 右:%)	
指導者数					6	
受講児童生徒数					65	
回答	とても満足した				63	96.9
	ある程度満足した				2	3.1
	あまり満足できなかった				0	0.0
	満足できなかった				0	0.0
	合　計				65	100

家具製作会場の様子

先生の感想

・講師の話の中から「何事も一人でできているわけではない」という言葉に関心をもち，これからの自分の生活の中でも，勉強や仕事などの面で，周りの人への感謝を忘れずにいたいという考えを持つことができた。
・木はとても固く，曲げることはとても困難で，気を付けなければすぐに折れてしまうと思っていたけど，講師の方のサポートや，曲木の技術を用いることで，比較的簡単に曲げることができた。
・見本で持ってきていただいた商品と，普段の生活で使用している製品を比べ，柏木工さんの商品の質の高さに驚いた。
・当初は家具の製作について興味関心がなかったが，実際に工程を体験することで，今後も身の回りの家具や
自然を大切にしたいという思いが生まれた。
・分かりやすく，また，当初は家具製作に興味関心が薄かった生徒も，講話や体験活動を通して「自然を大切にしたい」「高山で作られる家具を使いたい」など，想いを引き出すような熱いお話をされ，生徒だけでなく，教職者としても大変参考になるものでした。また，「使用する人の想いに寄り添う」ということを重点にお話しされ，現在では，取り扱いがない商品でも修理をし，これからも使い続けていただくという温かい姿勢にとても関心をもち，自身の生活の中で「他者の想い」を大切にすることはもちろん，関わる生徒一人一人にも，「物を大切に扱うことは，人の想いを大切にすること」として，考えを広めていこうと思いました。技術や体験に対して表面上の良さを感じていたわけではなく，講師の方の熱量の高さから，体験した生徒自身が家具に対する想いをもつことができる、とてもよい機会でした。

児童生徒の感想

・お話を聞いたり、柏木工の紹介動画を見たりしてみて、高山の自然豊かな木がどのように利用され、私達の生活の中へ来ているのかということが分かった。動画は木が家具になる過程がとても分かりやすくて印象に残ったし、その中で作るだけじゃなく修理も受け付けていることを知り、木を最後まで再利用して使おうとしている部分がすごいなと感じた。
・自分はあまり家具関係の仕事に興味が無かったけど、実際に曲木を作ったり1輪刺しを作ったりして、段々出来ていく様子や出来たときの達成感、こだわりを持って製作できた部分がとても楽しかった。高山の木がすごくきれいな家具に生まれ変わっていて、今後も自然を大切にして身の回りの家具も丁寧に大切に使いたい。
・木が作品になるまでに乾燥させて、切って加工するだけだと思っていたけど、想像の4倍～5倍ほどの工程があって、作品をよく見ると加工前とは全く別物だなと驚いた。
・昔から飛騨では木材を利用した家具作りが有名で、1つ1つを手作業で行うことでお客様に合った物を作れるということが印象に残った。今は工業関係の仕事をする人も少なくなってきて、このままでは伝統を受け継いでいく人がいなくなってしまうという話も印象に残った。
・いつも当たり前に家や学校で使っているイスや机でも、時間のかかる大変な作業があって出来ているものだということを知った。また、木を曲げる技術では、ただ温めるだけではない、という工夫からも家具作りの凄さが分かった。
・体験活動をしている中で、材料を誰がどのようにいて準備をしてくれていたかを考えることで、今までの製作よりも丁寧に作ることができるようになったし、愛着が湧いた。
・何事も「自分1人で出来ているわけではない」ということが分かった。今回の家具のみにとどまらず、この先の勉強や仕事、生活の場面でも自分以外の人への感謝を忘れずに伝えていきたい。
・自分は、最初木を曲げるなんてどうやってやっているんだろうと不思議に思っていたけど、話を聞いたり体験をしてみて、とてもすごい技術が日本にはたくさんあるんだなと思った。
・最初に、何もしていない木を曲げたときは簡単に折れてしまったり、曲がらなかったりしたけど、講師の人が事前に高温のお湯で煮てくれた木は、とても簡単にぐにゃっと曲がってビックリした。なんで高温のお湯で熱するだけで木が柔らかくなるのか、もっと知りたかった。
・曲げ木には、とても高度な技術と力が必要なのだと思っていましたが、思ったよりも力が要らず、曲げたときの感覚がとても面白かった。

畳製作会場の様子

先生の感想

・講話を聞いて，畳のことがよく分かったし，続けていれば技術がついてくるということを聞いて，今頑張っていることを続けていきたいと思った。
・畳の意外な効果やどのようにして作られているかを知ったことが印象に残った。畳について興味をもつことができた。
・全て機械で作られていると思っていたけど，手作業があったことにとても驚いた。畳のいろいろな効果があって驚いた。自分で畳を作ったことが楽しかった。
・最初，畳づくりにあまり意欲的ではなかったけど，今回の講話を聞いて，「楽しい」「またやりたいな」という思いをもつことができた。
・畳の縁を縫う活動では，思った以上に力が必要で，この作業を１日に7～8つの畳を作ると思うと根気がいる仕事だと思った。
・畳作りでは，最初は畳作りは簡単だと思っていたけど，実際はとても難しかった。
・畳を作ったことなんてなかったから，とても新鮮で楽しかった。友達と協力しながら、いいミニ畳をつくることができたので，とてもいい思い出になった。
・生徒たちは最初から最後までワクワクしながら時間を過ごしました。職場体験を行う際に生徒達の選択肢には出てこない職業であるため，貴重な体験や話を聞くことができました。畳に触れることが少ない日常の中で畳の魅力や日本の文化、技術の素晴らしさも学べたと思います。ものづくりの素晴らしさに触れ，これからの進路選択につなげていけたら良いと思います。また，生徒たちが興味をもって取り組んでいる姿を見て，教育者として生徒たちがワクワクする授業を創っていきたいと思いました。

児童生徒の感想

・1つの畳が作られるまでに、色々な作業・工程があることが分かったし、い草を見極めたり、畳を縫う技など、職人さんはすごいと思った。
・丸形畳のヘリが、どこに切れ目があるのか全然分からなかったし、細かい作業ですごいと思った。
・初めてミニ畳を作ってみて、すごく充実した時間になった。人とは違う柄やデザインで、たった1つのミニ畳ができた。
・畳の部屋で勉強すると脳の回転が速くなると知って、いいなと思った。畳を作るには大変な努力が注がれていることを知って、大切にしていきたいと思った。
・畳の作り方を知って、こんなに大変な作業をしてくれているんだとびっくりした。ヘリを縫うときは力の入れ方が難しかったけど、すごく楽しかった。
・初めて畳製作をやってみて、畳表やヘリの色を選んだり、タッカーを打ったり、どれも初めての経験ですごく楽しかった。畳に興味を持つことができた。
・畳製作の奥深さについて詳しく知ることができた。その中でもい草の特徴や、針を使った作業が特に印象に残った。
・縫う作業では、大変さを実感できたし、ミニ畳づくりは、自分の好きな色などを選ぶことができ、楽しさも感じながら作業することができた。
・全て機械で作っていると思っていたけど、手作業もあったことにとても驚いた。また、畳には色々な効果があって驚いた。
・講話を聞いて、畳の特徴や作り方がよく分かったし、続けていれば技術がついてくるというお話を聞いて、今頑張っていることを正しく続けていきたいと思った。

印章彫刻会場の様子

先生の感想

・職人の方の仕事への向き合い方を聞くことができ，生徒たちが自分の進路，将来のことを考えていく一つの材料になったと感じた。
・自分が誓約したい相手に，自分のハンコを押して誓約書を完成させたことで，自分で宣言したことの責任や印鑑の重みを改めて感じることができた。
・自分の印鑑をつくることで，大切にしていこうと思う気持ちや，印鑑を押すときは責任をもって押す大切さを知ることができた。
・彫る作業は細かいことだけど，それをずっと繰り返すことやそれで商売をしていくことの大変さを知ることができた。
・職業講話の中で，収入のための仕事ではなく，自分が本当に好きだと思えることを極めていった結果，それが仕事となり，やりがいを見つけていったというお話を聞き，生徒たちの職業観を広げることができた。
・講話や実際の印鑑を触ることで，手作業でつくり上げる価値や込める思いを感じ取ることができた。
・今回の講話や体験活動から，人のために何かをすることはお金が全てではない，相手の気持ちを考えてつくることが大切だということを学んだ。
・説明は短く簡潔で，体験を重視していただき，とても充実した時間を過ごすことができました。職人のいいところだけでなく，大変なところもお話していただいて，現実を知ることができて勉強になりました。また，あらかじめ下書きを盛光さんに準備していただいたおかげで，体験授業時間を十分にとることができ，全員が完成することができてありがたかったです。打合せで宣誓書をつくるアイデアをいただき，事前に生徒に考えさせ誓約書を作成したことで，当日の体験だけで終わることなく，自校で取り組んでいる「なりたい自分づくり」とつなげて活動を広げることができました。

児童生徒の感想

・自分のハンコは世界に1つしかないから、ハンコを押すときは責任を持って押すことが大切だと分かった。
・自分が頑張って彫った印章で、きれいにハンコを押せた時、すごく嬉しかった。彫るのは難しかったけど、分かりやすく説明してくださったのでスムーズに作業が進められた。
・自分のやりたい事、やりがいを見つけていくことが大切なんだと感じた。やりたくない事で人生を過ごしても楽しくない。それを講話を聴いて思った。
・こんなに柔らかい石があるんだな、まだまだ世界には知らない事だらけだなと思った。彫るのは大変だったけど、完成した作品を見たときの達成感がすごかった。
・「印章はその人の持っているお守りみたいなものだから、作る側もそれなりの覚悟を持って作ることが大切」という言葉が印象に残っている。
・僕は彫刻が苦手ですが、できばえはものすごく良いものとなった。一生の宝物にしたいと思う。
・彫る作業は単純だけど、それをずっと繰り返すことや、それで商売をする大変さを知った。
・三角刀と切り出し刀では、三角刀の方が力強い印を彫れるということがわかった。習字の自分の作品に押してみたいと思った。世界に1つだけのハンコが作れてとても嬉しい。
・今回、自分達が彫ったのは約1時間ちょっとくらいで出来上がったと思うけど、時間がかかるもので8時間以上もあの作業を行うときがあると聞いて驚いた。しかし、自分は細かい作業を長時間行うのが好きなので、ちょっとやってみたい気持ちになった。
・盛光さんが下書きしてくださったおかげでスムーズに出来たし、彫っている時間がとても楽しかった。とても良い体験と時間が過ごせた。
・講師の方が面白い方で、みんなを笑わせながらも分かりやすく説明してくれた。何十年もの間、印章を彫っていることを知って、すごいなと思った。集中しないと失敗することから、これからは何事にも集中して取り組んでいきたいと思った。
・盛光さんがハンコを彫っているところが、少しでもいいから見てみたかった。

フラワー装飾会場の様子

先生の感想

・時間厳守の大切さ
お客様が待っているので、何が何でも締め切りを守る、間に合わせる。相手が第一の意識をもつことが大切である。
・お客様目線での花束づくり
お客様に合わせた花束を作る。独りよがりの作品ではなく、ニーズに対応していくことが仕事をする上で必要である。
・仕事を誇りに思い、楽しいと思えることが大切
・生徒の興味関心が高く、専門的なお話を聞いたり実際アレンジメントをしたりなど、意欲的に取り組むことができました。講話や体験活動を通して「自分の好きなことを仕事にする」「自分の得意なことを伸ばす」などを経験をもとに語っていただいたおかげで、生徒が職業選択をする上で大変参考になるものでした。また、講話では「仕事をするときには、期限を守る」ことの大切さも伝えていただき、普段の学校生活で大事にしていることとつなげることだと教職者として感じました。

児童生徒の感想

・講話を聞いてみると、フラワー装飾をするには資格が必要で、国家試験を受ける必要があってすごいなと思った。
・講師の人がとても早く花束を作るところにビックリした。ただ早いだけではなく、配色や位置などを考えてつくっていることも分かった。
・フラワーアレンジメントも楽しかったけど、花束も作ってみたかった。印象に残っていることは、アレンジメントを作り終わったときの達成感があったこと。
・フラワーアレンジメントは、ただ刺すだけの単純な作業だと思っていたけど、刺す位置などを工夫しないと花に栄養が行き渡らなくなったりするので、とても難しかった。
・講師の先生が作業をしているところを見ていてかなり早いスピードできれいなフラワーアレンジメントが出来ていて、改めてすごいなと思った。
・実際にフラワーアレンジメントを作ってみてとても難しかったし、コツをつかむのも難しかった。フラワーアレンジメントに少し興味を持ったので今後に生かしていきたい。
・自分でフラワー装飾をしてみて、自分の個性が出てとても楽しかったし、向きや長さを考えて作るのがとても楽しかった。
・「資格を取ったことが自信に繋がった」という話がすごく印象的で、私も自分に自信をつけるため資格を取ってみようと思った。
・花束は選んで包むだけだと思っていたけど、選ぶ段階からしっかり考えて選ばないといけないし、包み方もきれいに見せること、包む紙の色とかも考えることが大切で、ただやるだけではダメだということを学んだ。